

21年度予算案 :347.7億円
 <平成20年度補正予算:30.0億円>

(20年度予算額 :361.4億円)
 (運営費交付金の推計額を含む)

文部科学省における平成21年度ナノテクノロジー・材料分野の予算案の概要

●分野融合・イノベーションを支える研究基盤の構築

X線自由電子レーザーの開発・共用【国家基幹技術】
 103.5億円(110.0億円)
 <平成20年度補正予算:30.0億円>

- 物質の一原子レベルの超微細構造や化学反応の超高速動態・変化を瞬時に計測・分析することを可能とするX線自由電子レーザーを実現



ナノテクノロジー・ネットワーク
 13.1億円(17.3億円)

- 大学や独立行政法人等の研究機関が有する先端的な研究施設・機器の共用化を進め、分野融合を促進し、ナノテクノロジー研究基盤の整備・強化を図る。



●社会への成果還元を目指した目的志向の研究

ナノテクノロジーを活用した環境技術開発

2.1億円(新規)

- ナノテクノロジー・材料分野において高い研究水準を誇る我が国が、地球環境問題を抜本的に解決して持続可能な社会を構築するために、産学が連携して環境技術の基礎基盤的な研究開発を推進するための研究拠点を構築する。

革新的技術戦略対応

○元素戦略 6.9億円(5.9億円)

- 総合科学技術会議がまとめた「革新的技術戦略」に「レアメタル代替・回収技術」が掲載されているが、この技術を強力に推進するため、リサイクルしやすい元素による材料設計、スクラップから希少元素を回収再利用する技術開発、スクラップ・低品位原料使用を前提にした新たな機能開発を実施する。



その他の競争的資金

○元素戦略以外のキーテクノロジーの研究開発 11.2億円(14.1億円)

○次世代の電子顕微鏡の要素技術開発 1.1億円(3.5億円)

○光・量子科学研究拠点形成に向けた基盤技術開発 17.2億円(15.0億円)

- 光・量子科学技術分野の研究開発課題を国として戦略的・積極的に実施するとともに、次世代の光・量子科学技術を担う若手人材等の育成

●独立行政法人等における新たな知を生み出す 独創的・先端的研究開発の推進

(独)物質・材料研究機構における研究の推進

(独)理化学研究所における研究の推進

(独)科学技術振興機構における研究の推進

※「革新的技術」である新規超伝導物質の研究開発等